



# ふくの森の会

今回のまちの主演は、令和元年度に長年の活動が評価され「県民活動きらめき賞」を受賞した森林ボランティアグループふくの森の会を紹介します。

森からみんなの  
幸せを願って  
願いを未来へ  
親睦を深めながら  
楽しみながら

森林ボランティアグループ「ふくの森の会」は、山や森を救おうと活動している人たちが結成されています。平成12年1月から活動を始め、今年で結成21年目を迎えました。会員は34家族。おおよそ、月に2回のペースで活動しています。里山での樹木の伐採や植林、シイタケ栽培、アウトドア料理、バードウォッチングなどを通して、会員同士の親睦を深め、楽しみながら自然に優しい活動を行っています。



▲原木で栽培されたシイタケ。肉厚で、香りも豊かです。

## 森のサイクル

内日ダムのほとりにクヌギ、コナラなどの落葉広葉樹林の森があります。「ふくの森」と名付けられたこの森が主な活動場所です。

会の設立当初からのメンバーである松倉会長に話を伺いました。「落葉広葉樹は、葉が落ちるので、森に降った雨は、栄養をたくさん含んで川から海へ流れ、豊かな海をつくります。そうして、みんなの幸せにつながればとの願いを込めて、会の名前に『ふく』が付けられました」。この願いのもと、森は約20年間守られ続けています。木を植えて、15年経つと伐採し、活用（原木でシイタケを栽培、枝を炭焼きして木炭を作り、その木炭を作る過程で出る煙から木





▲松倉守会長「会員が高齢化しています。新しい方にも参加してほしいです」



▲枯れ木。シカによる枝葉の食害や剥皮被害が深刻化しています。



▲草刈機を使用した作業。草刈機を安全に使うために県の講習を受けています。



▲今年3月に植樹したしだれ桜。鳥居型の支柱で補強されています。

酢液を生成) しています。そして、また15年経つと伐採し、活用します。15年のサイクルなので、引き継いでいくことが求められます。

### 市民と一緒に市民の山を

会では、自然体験会を通じて地域住民との交流も行っています。平成21年には「再生プロジェクト 火の山・森の応援隊」を開催。71人の市民と会員20人が協力して、火の山の雑木林で伸び放題のかずらの伐採に取り組みました。

作業後には、関門海峡が見下ろせる景色の中で昼食を取りながら交流会を行いました。「会員のほとんどが初めは森の整備に関して未経験者。訓練して、市民に指導できるレベルまでになってこのプロジェクトが実現しました。チェーンソーや草刈機を使ったことがない人も3年も経てば指導できるようになりました。みんな、『楽しい、面白い』と言って、どんどん上達していきま

す」と松倉会長はうれしそうに話します。

### 長年の活動を振り返って

令和元年度には、長年の活動が評価され「県民活動きらめき賞」を受賞しました。

### 編集後記

- 「おうちにいながら地元を応援!」というキャッチフレーズのごちタク。お昼ごはんの選択肢が増えて体重も増加中。(き)
- 4コマ漫画に出演したせきまる。関門海峡に流されましたが、泳げるのではとの疑問が。どんな泳ぎをするのか想像が膨らみます。(ひ)
- 自然と触れ合いながら働く方々の姿が素敵でした。環境保全の重要性を改めて感じ、省エネ生活を心掛けます。(と)

「20年続いたのは、会計や監査がしっかりしているところ、方向性を共有してきたところ、和気あいあいと楽しく活動してきたところにあると思います。会員のみんなに良いところがあります」と会員の良いところや得意なところを楽しそう話す松倉会長。今後の課題に、会員の高齢化があります。

「肉体労働をしたことのない人にも参加してもらい、汗をかく素晴らしさを感じてほしいです。みんなの居場所になればうれしいですね」

活動への問い合わせは、多くの森の会事務局秋本さん(☎245-19242)まで